

■中巖円月 禅僧、五山文学者。中国思潮を最も体系的に理解して帰国、迫害を受けて転変の後、五山学僧最高位に。

ちゅうがんえんげつ
・ ・ ・ ・ ・ 1300＝

鎌倉で土屋氏の一族に生まれる。直後に父が事件に連座して西国配流になったため、孤児同然となり、乳母の縁地武蔵烏山で育てられ、

・ ・ ・ ・ ・ 1306＝ 6歳：十干十二支による齢の数え方を知り、庚子生まれだったことで、同音の孔子を強く意識するようになる。
・ ・ ・ ・ ・ 1307＝ 7歳： 鎌倉寿福寺に僧童として預けられ、

・ ・ ・ ・ ・ 1309＝ 9歳：

種々の学業を積んで、

・ ・ ・ ・ ・ 1314＝14歳： 円覚寺の東明慧日に師事するも、
一意に叶わず、

後醍醐天皇・1318＝18歳： 入元を志すも許されず、諸師を訪ねて参禅を続け、

後醍醐親政始1321＝21歳： 親友とともに上洛、闍提正具に相見を願うも叶わず、「元亨釈書」執筆中の虎関師錬に会えて影響を受け、

博多で入元を待つ間、
正中の変・ ・ ・ 1324＝24歳： 豊後杵築で大友貞宗に相見、万寿寺で闍提正具にも参じることができ、思想的骨格が定まて行く。
・ ・ ・ ・ ・ 1325＝25歳： 入元を果たし、

・ ・ ・ ・ ・ 1327＝27歳：
諸師につくうち、

・ ・ ・ ・ ・ 1330＝30歳： 百丈山東陽徳輝の下で、書記という要職について、一生を左右することになる。

・ ・ ・ ・ ・ 1332＝32歳： 帰朝。博多の願孝寺に寄宿するうち、
鎌倉幕府滅亡1333＝33歳： 鎌倉幕府が滅亡、大友貞宗の引立てで、後醍醐天皇に「原民」「原僧」を奉じるが、貞宗が急逝で続かず、
以後、各地を転々とするうち、

南北朝分裂・1336＝36歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1337＝37歳： 貞宗の子氏康に請われて、大友本宗家の地鎌倉藤谷の崇福庵に住する。
足利尊氏将軍1338＝38歳： 大友本宗家が領地支配の磐石を図るべく、利根に吉祥寺を造営するのを監督するため、現地に赴き、
後醍醐天皇没1339＝39歳： 開堂と兼ねて貞宗の追善供養を行った際、臨済宗大慧派の東陽徳輝を嗣ぐことを表明、東明慧日の弟子らに怨まれ、鎌倉に戻ると迫害され、官寺に住することができず、利根・藤谷で生活、
・ ・ ・ ・ ・ 1340＝40歳： 漢詩「藤陰瑣細集」。 建長寺嵩山居中から招かれるも、迫害を受け、
・ ・ ・ ・ ・ 1341＝41歳： 居中が死去したため、藤谷に帰らざるを得ず、この頃、「日本書」を執筆、後醍醐天皇に献上するも焚書。

・ ・ ・ ・ ・ 1345＝45歳：

基氏鎌倉公方1349＝49歳： ようやく、寿福寺全提志令に招かれ、同寺前堂首座となった。

観応の擾乱終1352＝52歳： 吉祥寺が幕府御祈願寺となったことから、
・ ・ ・ ・ ・ 1353＝53歳： *諸山の次位に列する鎌倉乾明山万寿寺住持を皮切りに、十利たる豊後万寿寺住持、
・ ・ ・ ・ ・ 1354＝54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1359＝59歳： *京都五山の万寿寺に住するに至る。

・ ・ ・ ・ ・ 1362＝62歳： *建仁寺住持の際、迫害を受けたものの、以後も順調で、
山名時氏征討1363＝63歳：

足利義満将軍1368＝68歳：

応安新式・ ・ 1372＝72歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1375＝75歳： 没した。

千坂?峰「五山文学の世界」、